

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792830044		
法人名	医療法人 栄心会		
事業所名	さかえハートホーム矢吹 (西館)		
所在地	福島県西白河郡矢吹町小松222		
自己評価作成日	平成28年9月25日	評価結果市町村受理日	平成28年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成28年11月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

駅からも近く周囲を閑静な住宅街に囲まれた当施設は、中庭にウッドデッキや菜園があり、入居者様が季節を感じ楽しみながら暮らせるよう努めております。また、入居者様のご希望に応じて、外食やお買い物・理美容等、地域との関わり合いを大切にしながらご本人らしく生活して頂けるよう支援しております。
当施設は医療法人の事業所の為、入居者様の日々の健康チェックや状態報告を行い医療と介護の連携に努めており緊急時・状態変化時には迅速な対応を心がけております。必要時にはいつでも医師と相談できる体制が整っておりますのでご本人様・ご家族様にも安心していただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 利用者とのコミュニケーションを大切に、一人ひとりの意向や希望を把握し、職員で話し合いながら利用者の持っている能力を活かせるよう菜園・掃除への参加、食材の買い出しや餃子・コロッケづくりなど日常生活での役割づくりや自分たちの生活づくりに参加できるよう支援している。
2. 利用者が、地域の一員として暮らし続けられるよう地域との関わりを大切に、地域イベントへ参加し、各種ボランティアの受け入れや行事などを通し、日常的に地域住民との交流が持てるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアの目の届くところに理念を掲示し、常にスタッフ間でも確認・共有しながら、理念に基づいた支援について話し合い実践できるよう努めている。	理念を事業所内に掲示し、会議や日常業務の中で話し合い確認しながら共有している。また、ネームプレートに理念を明記し、意識づけをしながらサービスに活かすよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや敬老会への参加や地域ボランティアの慰問、地元の店への食材の買い出し等で地域と関わり合いながら生活している。 ○夏祭り・敬老会・地域ボラ ○食材買い出し	町の夏祭り・敬老会への参加や作品展覧会への出品、各種ボランティアの受け入れなどを通して交流を深め、近隣商店での食材の買い出しや散歩の際に挨拶を交わすなど、日常的に交流が持てるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学希望者があった場合は施設内を案内し特色や方針などを説明し、相談に応じている。またご家族様・知人の面会時にも相談・アドバイスに応じられるよう声掛けを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業内容や行事の報告と合わせて、事故やヒヤリハットの内容を検討し防止策についてのアドバイスを頂きながらサービスの向上に努めている。	運営推進会議は定期的開催されている。会議では事業所の事業概況、事故・ヒヤリハット報告や抱えている課題などについて意見交換を行い、アドバイスを頂きながら、頂いた意見や提案をサービスの向上に活かすよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	関係市町村との連携を図りながら、入所受け入れ等の相談を行っている。今後も助言等を頂きながら協力関係を築いていきたい。	町担当者とは、事業所の実情報告や他町村の家族からの入居相談への助言を頂くなど、日頃から協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を中心に、拘束・抑制行為についての具体例を掲示しながら職員間でも理解を深められる様に取り組んでいる。また研修等に参加し、その内容を職員にも周知している。	身体拘束廃止委員会が中心となり、研修会への参加や職場内研修を通し、身体拘束に関する具体的な行為を理解しながら、利用者的人格、尊厳を守ることがケアの基本であることを認識し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時等に虐待に当たるケアがないか考える機会を設けている。また入居者様に対する言動についても、日頃より職員同士が声掛けあい防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を必要とされる方はいないが、必要に応じて活用できるように学習できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明し理解を得たうえで契約している。利用料金改定時には書面にて確認して頂き、面会時や電話でも説明し同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置し、口頭で伝えにくい事でも対応できるようにしている。また面会時にご家族様とのコミュニケーションを大切に、どんなことでも話しやすい雰囲気づくりに努めている。	日常生活の中で利用者の意向や意見を聞くように努めている。また、家族からは運営推進会議や面会時、電話連絡の際に意見や要望を聞くよう努め、出された意見や要望を運営に反映できるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング以外にも職員の意見を聞く機会を設け、検討・改善を行っている。法人の判断が必要な場合はいつでも相談できる体制になっている。	管理者は、日頃から職員の意見や要望を聞くよう努め、会議や個別面談を通して職員の意見や提言を聞く機会を設け、出された意見や要望を職員で話し合い運営に反映するよう取り組んでいる。また、法人に吸い上げる体制も整備されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力を把握し、やりがいがあるような環境作りに努めている。法人でも資格取得支援を設け個人のスキルアップを支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修内容を確認し、それぞれの職員にあった外部研修を受ける機会を設けている。研修で学んだことを報告し、スタッフ間でも共有してケアの質を高められるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入しており同業者主催の講演会や研修会に出席した際には交流する機会を作り情報交換等をしサービス向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様・ご家族様のお話を伺い要望等の把握に努め、安心感を与えながら信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が置かれている状況や不安に思うことなどを把握し、共感しながら必要な家族支援が出来るような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様の意向を把握し同法人や他事業所との連携を図りながらより良い支援が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において掃除や調理の手伝いなどの役割があることで、共に感謝の気持ちを持ちながら生活することができている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃よりご家族様の面会も多く、入居者様の様子をお伝えし意見を伺いながら共に支援する関係性が出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様の希望を伺いながら外食や買い物・ドライブに出かける機会を設けている。	本人の希望を大切にし、友人宅への訪問や食事、商店への買物、行きつけの店や理美容院へ出かけるなど、なじみの関係継続が出来るよう支援している。また、家族の面会が多く外食や墓参り、ドライブなどで関係が継続されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格などを考慮した上で、気の合う方が隣同士になるように配慮している。また必要に応じて職員が介入し気持ちよく関わりあえるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設等に移られる際には十分な情報提供を行い、面会に伺うなどし関係を断ち切らないように努めている。またご家族様にはいつでも相談可能であることをお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントシートを活用し、ご本人様やご家族様の思いや暮らし方の希望や意向などの把握に努め、ニーズに応えられるように努めている。	日頃の生活の中での会話やコミュニケーションを大切に、利用者の思いや意向の把握に努め、利用者がその人らしく生活でき、希望が叶えられるよう支援している。また、利用者が目標を持った生活となるよう、一年の目標や希望を掲げてもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシート等で生活歴などの情報収集をしている。また何気ない話の中でも新たな情報がないか会話を大切に職員間でも情報の共有に努めケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートを利用し生活パターンを知り情報を共有することで入居者様の小さな変化にも気づけるよう努めている。又その時々に応じてご本人様が出来る事を促しながら支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成はケアマネジャー・居室担当者が中心となり関わるスタッフも参加して意見を出し合っている。またご本人様やご家族様の思いや希望を取り入れながら介護計画を作成している。通常は三カ月毎に見直しをするがそれ以外にも必要に応じてプランの見直しも行っている。	居室担当制をとっている。介護計画は本人がより良く暮らすために職員で意見を出し合い、家族の意向を確認しながら、その結果を基に作成している。3ヶ月毎の見直しを基本としているが、利用者の状態変化に応じた対応と見直しを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やご本人様の言葉等を詳細に記録し、気づいた事やケアの工夫があれば職員間で情報を共有しケアの統一に努めている。それらを踏まえ介護計画の見直しをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様・ご家族様の要望を把握し状況に合ったケアを提供できるよう他業種との連携を図りながら実践することを努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域や施設の行事に参加して頂くなどして地域住民と交流しながら楽しく暮らしていけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはご本人様・ご家族様の希望を優先しているが、ほとんどの入居者様が法人クリニックを受診しており、定期的な往診体制をとっている。他科受診時には受診介助を行い必要に応じてご家族様に同行をお願いしている。随時、受診結果をご家族様、主治医に報告している。	かかりつけ医への通院の際は家族の同伴を基本としているが、困難な場合、職員が対応している。ほとんどの利用者が法人の医療機関をかかりつけ医としており、往診の際は職員が対応している。受診結果は家族に報告し事業所と家族が共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と常に情報を共有し、入居者様の体調変化時は報告・指示を受け迅速に対応している。看護師はクリニックに状況を報告、受診が必要な時は適切な情報提供している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関に対し必要な情報提供を行い病院・ご家族様とも密に連絡を取りながら、早期退院が出来るよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化・終末期についての説明を行っている。入居者様の状況を見て主治医がご家族様への状態の説明をしている。入居者様・ご家族様の要望把握に努め、ご本人様にとってより良い環境・状態になるよう職員全体で話し合いをし取り組んでいる。	利用開始時に重度化・終末期について利用者・家族に説明を行っている。事業所では医療連携体制加算は取っていないが、利用者が重度化した場合には事業所の看取り指針を説明し、家族及び医師等の関係者で十分話し合い、家族の意向をもとにターミナルケアをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療法人であるため急変時は医師・看護師の指示のもと対応している。救急対応マニュアルを作成し迅速に対応できるようミーティング時等でも確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地元の消防署に協力を得ながら年二回の総合訓練を行っている。地域住民やご家族様も参加しての訓練も実施することができた。様々な災害に対する避難訓練と避難場所について今後も関係各所と確認を取りあっていきたい。	消防署立会いの訓練(地震想定・救急法講習会)を年2回実施している。それ以外には、事業所独自の伝達訓練や夜間想定訓練を実施している。災害時の緊急備品として水・食料品・卓上コンロ・石油ストーブ等を準備している。また、訓練の際、地域の防災ボランティアも参加している。	多様な災害を想定し、事業所独自の訓練を数多く実施して欲しい。夜勤をする職員は夜間想定訓練に参加できるように年間計画されることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳を守り自尊心やプライバシーに配慮しながら接することを職員一人ひとりが気を付けている。その時々状況を考えて声掛けの工夫などを職員間で話し合いながら対応している。	誇りやプライバシーを損ねない話しかけや、トイレ誘導へのさりげない声かけや対応で支援している。また、個人情報の取り扱いなどには十分な注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より入居者様の状態をよく観察し、出来るだけ本人の思いに応じた選択・決定が出来るよう心掛け支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様が日課として行っている居室の掃除や調理の手伝い、運動等があるが、天候の良い日や希望に応じて散歩やドライブ、買い物に出かけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節・天候等を考慮し入居者様の好みの色やデザインを伺いながら服を選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	調理の下準備や料理の盛り付けを一緒に、お手伝いに感謝しつつ会話を楽しみながら食事できるよう支援している。	菜園で作物栽培をし収穫物を食材として楽しんでいる。食事の準備から片付けまで出来る利用者は職員と共に行動しており、職員も一緒に食卓を囲んで食事が楽しいものとなるよう支援している。外食も数多く企画している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様一人ひとりに合わせた食事形態で摂取しやすい工夫とタイミングを心掛けている。また食事・水分量の把握に努め、間食についてもご本人様が希望するものを提供できるようご家族様にも協力頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声をかけ見守り、必要に応じて介助を行っている。合わせて口腔内の状態観察を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しトイレの声掛け・誘導している。入居者様の状態に応じて職員2名介助で対応しトイレで排泄出来るように支援している。	表情や仕草、排泄チェック表で排泄パターンを把握し、羞恥心に配慮しながら、トイレでの排泄を基本に支援をしている。改善につながった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促せるように食事には繊維質の多いものや乳製品を取り入れ提供している。排便困難時は看護師に報告し体に負担にならないよう下剤等を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調に合わせて安全に入浴出来るよう支援している。入浴することで気分転換が図れるよう入浴剤を使用している。	週に2～3回の入浴を目標に支援している。利用者の体調に合わせてシャワー浴、清拭等も行っており、嫌がる方への対応にも工夫し個々に添った対応をしている。また、入浴剤や変わり湯(菖蒲湯・ゆず湯等)を取り入れ、入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないように日中はレクや体操、散歩や外気浴などをして体を動かして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを使用し、薬の作用について確認しながら介助している。臨時薬が出た際は看護師と連携を取りながら状態観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の皮むきや米研ぎ、お茶入れなど入居者様それぞれに日課となるお手伝いをお願いしている。役割を持つことでやりがいを感じながら生活して頂けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様からの希望があれば買い物や散歩、美容室などに同行し日常的に外出できるように支援している。季節の行事として初詣や花見又は外食の機会を設けている。またご本人様の要望をご家族様に伝え、墓参りなどにも出かけることが出来ている。	日常的に散歩や買い物、理美容室など利用者の希望により外出している。また、事業所として外出の機会を多く企画し実践している。花見・ドライブ・紅葉狩・初詣、外食等の外出支援は利用者の楽しみとなっている。また、家族の協力で出かける人もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設側で金銭管理を行っている。入居者様には必要な時には使えることをお伝えしており、ご本人様の買い物同行を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはいつでも電話や手紙のやり取りができる事を伝えている。また季節の手紙を出す機会を設けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月季節感を感じられるような壁画や飾りを入居者様と制作している。ウッドデッキには花や野菜を植え、隣接するユニットへの往来も出来る。また採光・換気・室温等にも注意し快適に過ごせるよう支援している。	玄関ホールは元家族の方が毎週持参してくれる季節の花で彩られている。共用空間の壁や天井には利用者と一緒に作った季節感のある作品が飾られ和みのある空間になっている。事業所は平屋で共用空間は掃出し窓となっており、ウッドデッキを経て避難出来るため、災害時には有効である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席はほぼ定位置が決まっていることで、入居者様が安心して過ごすことが出来る。時折変化をつけて他入居者様との関係の場を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	馴染みの家具などを使用して頂くようにご家族様にも説明はしているが、実際に持参される方は少ない。居室内には入居者様の作品やご家族様のお手紙や写真を飾り、ご本人様らしい部屋作りを心掛けている。	なじみの物(本・椅子・写真・ぬいぐるみ等)を持ち込んでもらい、事業所に来てから作成した折り紙の作品等を天井から吊るす等、利用者らしく暮らせるよう工夫し配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が分かりやすいように案内を掲示したり、状況に合わせてポータブルトイレを設置している。一人ひとりの状況に合わせた環境作りに努めている。		